2023 年 11 月 10 日

各位

上場会社名	東邦亜鉛株式会社	
代表者	代表取締役社長	伊藤　正人
（コード番号	5707）	
問合せ先責任者	資源事業部長	中川　英樹
（TEL	03-6212-1704）	

豪州鉱山の閉山に関するお知らせ

当社及び当社の豪州子会社は、本日開催の取締役会において、下記のとおり豪州にあるラスプ鉱山の閉山を決議いたしました。

記

1. 概要

当社の豪州鉱山開発運営子会社である CBH Resources Limited（ＣＢＨ社）が運営するラスプ鉱山を、2024 年末までに閉山することを、本日当社及びＣＢＨ社の取締役会において決議いたしました。これに伴い、当社連結決算においては減損損失を、当社個別決算においては、同社株式の評価損失を計上するに至りました。また、当該減損に伴い同社が債務超過となったため、当社個別決算において、貸倒引当金及び関係会社事業損失引当金を計上いたしました。

2. 閉山に至った経緯

ラスプ鉱山は、19 世紀末からの開発採掘鉱区に於いて、主力鉱体である未開発低中品位 Western Mineralization (WM 鉱体)と高品位 Main Lode 鉱体残存部分の採掘を目的として、2012 年に操業を開始してから 10 年超が経過し、主力 WM 鉱体は今後約 3 年間で終掘する見込みです。

これに伴い、深部の次期主力 Centenary 鉱体への移行と鉱区北部の高品位鉱体の継続的開発を軸とするラスプ鉱山の中長期事業計画を検討してまいりました。しかしながら、①WM 鉱体から Centenary 鉱体への移行段階で経済性が得られる粗鉱採掘が出来ない事、②鉱量品位下振れのリスクが有る事、③深部鉱体開発には多額の設備投資が必要であり、操業コストも上昇する事、などの理由により次期主力 Centenary 鉱体開発の経済性は低く、同鉱体開発を前提とするラスプ鉱山の中長期事業計画は事業性が見込めないとの結論に至りました。

従って、ラスプ鉱山は、次期主力 Centenary 鉱体の開発は行わず、既存 WM 鉱体の採掘を以って操業終了とし、操業終了に向けて、設備投資額の抑制、経済性を保った鉱山操業計画と人員削減計画

の実行、操業終了後の鉱山管理体制、及び州政府と地域社会との調整作業等を総合的に検討し、当社として、ラスプ鉱山を 2024 年末迄に閉山する事といたしました。

3. 今後の鉱山経営

ラスプ鉱山を閉山する場合、自社にて原状回復義務を履行することとなりますが、閉山プロセスと並行して、ラスプ鉱山の第三者への売却も再度試みる予定です。

ラスプ鉱山の閉山（又は売却）後は、当社グループが投資・運営する稼働鉱山は豪州アブラ鉱山のみとなります。同鉱山は、2023 年 1 月に操業を開始して以降、操業立上げ初期段階の要因による損失が先行しましたが、足元は操業立上げに改善も見られ、2024 年は安定操業に乗ると想定しております。今後も操業状況をモニターし、鉱山ポートフォリオの見直しも常に視野に入れて参ります。

4. 当社業績への影響

① 当期の連結業績への影響

固定資産の減損損失 196 億円を、2023 年度第２四半期に特別損失として計上しております。また、約 14 億円を 2023 年度下期に計上する見込みです。

② 当期の個別業績への影響

関係会社株式評価損 202 億円、貸倒引当金及び関係会社事業損失引当金繰入額 32 億円を、2023 年度第２四半期に特別損失として計上しております。なお、当該特別損失は、連結決算においては固定資産の減損損失を通じて取り込まれているものであり、内部取引として全額相殺消去されるため、連結業績へ与える影響はありません。

③ 当期以降の業績への影響

2024 年度は、ラスプ鉱山従業員の解雇費用等の発生はあるものの、一部はすでに引当て済みであり、資産売却なども進めることで、大きな損失の発生は想定しておりません。また、閉山後は、鉱山の原状回復をＣＢＨ社が行う場合は同支出が発生しますが、引当金を計上済みであり、今後の費用の発生額は限定的です。

なお、当該損失の計上に伴い、本日、業績予想の修正を行い別途開示しております。

以上